

技術交流会終了後アンケートによる質問への回答

【口頭発表 3】

発表テーマ：「船舶レーダを用いたコウモリの移動経路・飛翔高度の解明」

発表者：いであ(株) 小村 健人様

【質問内容】

- ① 本調査ではユビナガコウモリの生息している海蝕洞を対象として調査を行っているが、この海蝕洞にはユビナガコウモリ以外のコウモリ類は生息していないのか。船舶レーダーで種同定は可能なのか。衝突確率を算出する際に、種ごとにパラメータが異なる可能性が高いため非常に重要になってくると思う。

回答：現状ではユビナガコウモリ以外の生息は確認されていません。レーダのデータからコウモリの種同定は現状不可能です。仰る通り衝突確率のパラメータ設定は重要であり、バットディテクタとの併用等で種同定が可能か今後検討していく必要があると考えます。

- ②ユビナガコウモリは渡りをすることが報告されているが、なぜ繁殖期のみなのか。風力発電事業に資する手法にするには、渡り期も実際に調査し、どのような課題があるのかを示すべきではないのか。

回答：仰る通り、渡り期の調査も実施することが望ましいと思います。ただし、鳥類の渡り期と被ることから、コウモリだけを対象とした渡り期調査は現状困難であり、今後の課題として社内検討を続けている段階です。

- ③渡りをするコウモリは少ないと述べていたが、なぜ日本に生息するコウモリの情報が少ない中でなぜ断言できたのか。ヤマコウモリ、コヤマコウモリ、ヒナコウモリ、ヒメヒナコウモリ等のコウモリは既存資料で渡りをする可能性が示唆されており、渡りをするコウモリは少ないとは言えないと思う。

回答：仰る通り、現段階の情報量では少ないと断言はできません。誤解を招く表現を使用したこと、お詫び申し上げます。現段階では「コウモリの渡りに関する情報は少ない」が正しいです。

また、コウモリ類の飛び方は鳥類と異なる飛び方をすると述べていたが根拠はあるのか。

回答：発表でも申しましたが、異なる飛び方をするというのは現場感覚の話であり、レーダから鳥とコウモリを完全に区別することは現状不可能です。

- ④ねぐら等の情報がない中で、船舶レーダー調査を行った場合、コウモリ類の飛翔を見分けることは可能なのか。

回答：前述の通り、鳥と完全に区別することは不可能なため、現状鳥の渡り期を外して調査をしている状況です。コウモリの繁殖期に夜間（日没直後は除く）に群れで飛翔を行う鳥類はあまりいないこと等、あらゆる状況から総合的にコウモリの飛跡と推定しています。事業に応用する際は、現地の学識者と相談の上での推定になるかと思えます。